

地蔵寺 (小松島市)

小松島市は徳島県の玄関口として、小松島港を中心として古くから栄えてきた都市です。市域面積は44・38km²で、人口約44,000人。太陽と水と緑豊かな港湾都市”をキャッチフレーズとする人味味の厚いまちです。

観光地としては、風光明媚な弁天山、四国霊場第18番札所恩山寺、第19番札所立江寺、春は桜の名所としてにぎわう恩山寺自然公園などがあり、四季折々に観光客を楽しませてくれます。また金長大明神大祭や港まつりなどの年間行事が数多く催されています。

1806年(文



地蔵寺

化3年)に現在的那賀川町より小松島に移転した地蔵寺の本堂は、足利氏とゆかりの深い平島公方の館です。玄関と書院は昔ながらの武家時代の様相を残しており、昭和27年6月県文化財の指定を受けています。



豊後安国寺 (国東市)

大分空港から国道213号線を北に向かつて約10分、国東市国東町に太陽山安国寺があります。

安国寺は足利尊氏公が後醍醐天皇の追善供養と国家安寧を祈願し、全国(一國一寺)68ヶ所に建立された寺であり、当山は1394年(応永元年)に豊後の国の安国寺として絶海中津国師を開山に足利尊氏公を開基にして創建された、臨済宗妙心寺派に属する禅刹です。

石段を登ると山門がある、天明4年に再建された鐘樓門です。両脇に石造りの仁王像が鎮座し寺を守っています。明治39年に後藤宗旭師が第30世住職として入山。畳一枚なかった安国寺の再建の基を築きました。

「尊氏公座像」は京都東山の東岩蔵寺(室町將軍家の祈禱所)に収められ、応仁の乱の後、京都山科の地蔵寺にもたらされました。明治40年に京都府知事の許可を得て豊後の安国寺に移管され本堂に安置されています。座像は松材寄木造りで尊氏公存命中の制作といわ



安国寺

れ柔和なお顔をしています。足利尊氏の像としては最も古く貴重なものとして平成24年に国の重要文化財に指定されました。

「延命地蔵尊立像」は平成6年に大分県の有形文化財に指定されている。その他にも赤穂浪士四十七士にかかわる遺物もあり、大石良雄ゆかりの「おかる」の尼僧像も本堂に安置されている。

